

一緒に遊ぶ

「病院仲間」盛大に忘年会

暮れのある日、大阪府八尾市の市文化会館は、患者たちの笑顔でいっぱいだった。同市内の松尾クリニックが、患者の集い「松樹会」のために開いた忘年会。健康をテーマにした講演会のあと、患者たちが結成したコーラスグループが日ごろの成果を初めて披露した。

お年寄りの姿が多い。ピアニートの伴奏は院長の松尾美由起さん(60)だ。コーラスの次は、松尾さんが出題する健康クイズ。

「やせるには、一日一食に減らした方が三食すべて運動するよりいい。さあ、これは正しいでしょうか」
「患者たちは立ち上がり、手でO×のジェスチャーで答える。正解はおわかりでしょうか。もちろん「X」。

患者会のメンバーは約二百五十人。活動はコーラス、書道、絵、七宝焼など多彩だが、リーダーはすべて患者というのが特色。中でも人気を呼んでいるのは、四年前に始まった劇団「松ぼっくり」。自分たちでシナリオを工夫して猛練習。毎年夏に、市民ホールで公演している。

松尾さんは毎朝七時に、近くのオープン病院に入院しているクリニックの患者を診察する。「共同主治医制度」による病院と診療所の連携の試みだ。

小柄だけれど、エネルギーの塊のような松尾さん。疲れませんかと聞くと、「私、落ち込んでいるときでも、患者さんと一緒に遊んでいたら元気になります」という答えが返ってきた。「本当は患者さんに癒(いや)しをいただきたいんです」。うらやましい関係だと思った。

患者たちと、なごやかにクイズをする松尾美由起院長＝大阪府八尾市の市文化会館で

